腎臓内科

■診療科長　　藤元　昭一

■研修実施担当者　　佐藤　祐二

教育施設として認定を受けている学会

日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会

診療科の概要

当内科では、検尿異常から腎不全まで、腎臓分野の全てを網羅する疾患の内科診療を担当しています。

（１）検尿異常、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎機能障害に対し、評価の上で適応があれば腎生検を行っています。その後、腎病理診断に関するディスカッションを行った上で、ステロイド薬や各種免疫抑制薬による治療、場合によってはアフェレーシス療法なども行っています。

（２）腎不全に関しては、院内発生の急性腎不全、慢性腎不全に対し、透析導入も含めて診療を行っています。

腎疾患は全身性の内科疾患の合併症であることも多く、腎機能障害患者では輸液管理や感染症治療等も重要となります。そのため、全身を診ることが重要であり、内科疾患を幅広く学ぶことができます。また、内科専門医・各学会専門医を取得するために必須な疾患を経験することができます。経験豊富なスタッフが、あなたの初期研修をサポートします。

研修症例の特徴

腎臓内科では以下のような症例を中心に診療を行っています。
慢性糸球体腎炎（IgA 腎症、他）、ネフローゼ症候群、全身性疾患に伴う糸球体疾患（糖尿病性腎症、腎硬化症、ループス腎炎、他）、急速進行性糸球体腎炎（ANCA 関連腎炎、他）、尿細管・腎間質性疾患、急性および慢性腎不全｛透析導入やバスキュラーアクセス（シャント）形成術、合併症治療を含む｝

研修目標

【一般目標（GIO）】

患者さんに寄り添いながら病歴を系統的に聴取し、全身の理学所見がとれるようになる。また、入院後の検査のすすめ方や治療方針について指導医（上級医）と議論できるようになる。

【個別行動目標（SBOs）】

- 毎日の回診で担当患者と良好なコミュニケーションがとれ、指導医と情報を共有できるようになる。
- 病歴聴取と身体診察から複数の鑑別診断を挙げられるような臨床推論思考ができるようになる。
- 担当患者の全身状態/バイタルサインから緊急度/重症度を判断できるようになる。
- 鑑別診断について「確定診断」と「除外診断」に必要な初期検査を選択できるようになる。
- 末梢静脈路の確保ならびに動脈穿刺が安全に試行できるようになる。
- 輸液の必要性を判断でき、その際の初期輸液メニューを組むことができるようになる。
- 状況に応じた担当患者の紹介プレゼンテーションができるようになる。
- SOAP に基づいた問題解決型の診療録作成が遅滞なくできるようになる。

研修方略

【指導医および指導体制】

指導医がつき、日頃の疑問点や判断に困ることなど、いつでも相談できる体制をとっています。入院サマリー作成も指導します。

また、毎日17時00分より、その日に入院した患者や重症者ならびに侵襲的な検査や治療手技を施した患者等に関して、当直医や病棟医長等を交えてカンファレンスを行います。自分の担当症例のみならず、同僚や先輩が受け持つ患者情報を学ぶ絶好の機会となりますし、お互いに医学知識を可能な限り共有することで、“チーム医療”を行っています。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

（１）入院患者の臨床・病理カンファレンスにて、指導医（上級医）の考え方などを学べます。
（２）腎臓病に関する文献紹介やレビューにて、最新の医学研究の動向を知ることができます。
（３）各学会での担当症例の発表を通して、“プレゼンの仕方”や“サイエンスとしての医学”を学びます。

【週間スケジュール】

	午前	午後
月	病棟/外来診療、透析	入院患者カンファレンス
火	病棟診療/透析	各種アフェレーシス療法、 病理カンファレンス、 腎臓研究室勉強会/カンファレンス
水	病棟/外来診療、シャント手術、透析	病棟診療
木	病棟診療、透析	腎生検、 各種アフェレーシス療法、 退院患者サマリーチェック
金	病棟/外来診療、透析	病棟診療
土	透析（スタッフ）	

研修評価

○　オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）

指導医・先輩医師からのメッセージ

腎臓内科では、急性期から慢性期まで、全身性疾患の一部としても、幅広く症例を経験することができます。また、経験豊富な多数の先輩医師が、研修医の皆さんをしっかりとサポートします。私も先輩たちから、そうやって育ててもらいました。腎臓内科の研修期間は、あなたの将来の糧に必ずなると思います。共に切磋琢磨しましょう！！